

# トルコにおける「アレヴィー」に関する宗教学的的研究 トルコ・アレヴィー、ジェム儀礼、願かけ（アダック）

著者	佐島 ？
学位授与機関	Tohoku University
学位授与番号	文第316号
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10097/00125786">http://hdl.handle.net/10097/00125786</a>

## 博論要旨

人口 7000 万人以上のトルコ共和国において約 2000 万人のアレヴィー (Alevi) の人々がいるとされる。しかしアレヴィーの自己認識も多様であり、言語的、宗教的、文化的、民族的にも多様である。Alevi の語義は「アリーの」「アリーの信奉者 (支持者)」の意味である。Alevi はアラビア語のアラウィー (Alawi) をトルコ語にした言葉であり、英語でも Alevi である。そのためにアレヴィーはアラウィーと混同されたが、しかし現在のアレヴィーはアラウィーとは別の考え方や習慣を持つ別の集団である。アレヴィーの語義はアリーを信奉する人々等の意味であり、アレヴィーリキはアレヴィー性、アレヴィーなるものの等の意味である。トルコ語話者である一定の方向性を持っているトルコ・アレヴィー (アナトリア・アレヴィーやアレヴィー=ベクタシを含む) の考え方や行動を明らかにすることが本稿の目的である。さらに願かけ (アダック、Adak) に着目して、アレヴィーの特徴を明らかにしたい。

英語文献等からすると、アレヴィー (Alevi) は 19 世紀後半にトルコ東部でアルメニア人による自治権拡大の要求が高まった歴史的文脈で登場した。そしてアナトリア・アレヴィーはトルコ人であり、アレヴィーはトルコ・アレヴィーであるとされた。これは当時の国際的政治状況の中でトルコ民族主義の興隆との関連で形成されたと考えられ、20—30 年代初頭にアレヴィーはトルコ民族主義の原型として称揚された。またアレヴィーとベクタシ教団とは教義の点でほぼ同一とされた。

アリーについて見てみると、アリーは預言者ムハンマドの娘婿でカリフでもあることからアレヴィーはイスラーム文化圏と密接に関連している。ただしアレヴィーの中には、アリーをムハンマドと対等もしくは彼より上と考える人もいる。従ってアレヴィーは、スンニー派やシーア派とは異なる。しかしながらアリーがアレヴィーの開祖とは考えられてはいない。

教義的な側面を見ると、コーランなどの聖典よりも、口頭伝承による言い伝え、箴言などが生きる指針を与えている。

アレヴィーの特徴の一つはジェム儀礼にあるとされる。これもスンニー派やシーア派とは異なる。アンカラのジェム儀礼の過程を見ると、その中では、デデなどへの尊敬や敬意の儀礼、アレヴィー共同体への加入、結びつきの強化、統合や一体感などに繋がる儀礼、人間関係を整序する儀礼などを見ることができる。また儀礼の中で、陶醉し、意識を失った女性がいた。儀礼の中では、神への讃歌を唱えているのであるが、この儀礼の持つ意味は、人間関係を調整して人と調和のある関係を結ぼうとする儀礼でもあった。

トルコでは現在 4+4+4 の義務教育が行なわれている。その中で「アレヴィー=ベクタシ」の教育が行なわれている。そこで世俗教育の「宗教」の 2010 年の教科書を分析すると、そこにはアレヴィーの説明の中にスンニー派イスラームの解釈や説明が入り込み、以前の「伝統的アレヴィー」の説明とは異なっていた。教科書の著者には宗務庁やイスラーム

ム神学部出身者がおり、義務教育の教科書の中には、トルコ＝イスラーム統合とスンニー派イスラームとの関連や影響が考えられる。

トルコ・アレヴィーの特徴として種々の「願かけ」行動が見られるので、中央アナトリアに位置するハジュベクタシ町の願かけの変化を観察した。その時に、多くの人々が願かけをする古木が切り倒された。これは古木が弱まり願かけを控えさせようとしたのである。しかし人々は、木がなくなっても別の表現方法で、願かけ行動を持続していた。(町長などに願かけとイスラームとの軋轢も見られる。)

また 2007 年頃にモスクの中に掲示があった。それは願かけを禁止する宗務庁からの通達であった。しかし人々はそれにもかかわらず願かけをしており、イスラームとの軋轢をも示すものであった。

また、犠牲祭で犠牲獣を切ること（クルバン）はイスラームの喜捨とも考えられるが、ハジュベクタシ町でみる限り、クルバンはアレヴィーたちの特徴的な行動であった。犠牲獣の月毎の販売数を数えると、犠牲祭の犠牲獣の販売数はむしろ少なかった。これはアレヴィーたちが記念祭や行事の時に犠牲獣を購入して犠牲獣を切るからである。アレヴィーの考え方からするとクルバンは願かけのためであった。つまりトルコ・アレヴィー（アレヴィー＝ベクタシの人々も）などが多数集まる機会にクルバンを購入して、願掛けのためにクルバンを切っていたのである。

またエゲ海地方のアレヴィー集落には、複数の医療体系が存在した。医者や病院などの近代的西洋医療による治療もあれば、家の年長者や近所の知識を持つ年長者による治療、薬草の知識を活用する伝統的病気治しなどの病気治しをする方法もある。お金がかかることにより西洋医学への信頼は薄く、アレヴィーであることから、集落内や家で治療しようとする傾向がうかがえた。

論文審査結果の要旨および担当者

提 出 者	佐島 隆
論文審査担当者	(主査) 教授 木村 敏明 教授 沼崎 一郎 准教授 山田 仁史
論 文 名	トルコにおける「アレヴィー」に関する宗教学的的研究 ートルコ・アレヴィー、ジェム儀礼、願かけ（アダック）ー
<p>本論文は 1990 年代以降のトルコにあってメディア等で盛んにとりあげられるようになった「アレヴィー」なる人々について、提出者による現地における長年の調査に基づき、これまで明らかにされてこなかったその実態を解明した労作である。</p> <p>第一章ではまず「アレヴィー」という言葉がトルコで重要な意味を持つようになってきた歴史的経緯を明らかにする。「アリーの崇拜者」を意味する「アレヴィー」という言葉は 1990 年以前には多様なエスニックグループの多様な宗教実践を示す言葉として用いられてきたが、スンナ派への対抗軸として政治化されることで多様な文化・集団がその名前のもとに包摂され、そこに帰属意識をもつ集団や人々も現れるようになったことが示される。第二章では 2000 年代以降の「アレヴィー」の展開が二つの事例を通して扱われる。まず第一節では国民教育省制定の教科書『宗教文化と道德の知識』（2011・2012 年版）をとりあげ、アレヴィーの多様な実践をイスラームの六信五行に即して整理して提示するなどトルコ政府やスンナ派に接近していこうとするジェム・ワクフを中心としたグループの見解がそこに反映されていることを指摘する。第二節では 2000 年代の法改正にともなうて行われるようになったジェム儀礼における現地調査のデータをもとにして、スンナ派イスラームとはかけ離れたその実態を明らかにする。また、これらを論じる過程で、現代アレヴィーについてイスラーム化を図る方向、独立した宗教と主張する方向、独自の伝統をもつ「伝統的アレヴィー」の 3 潮流があることが指摘される。</p> <p>第三章以下では、政治化され組織化された「アレヴィー」から目を転じ、農村部の「伝統的アレヴィー」をとりあげ、その信仰実践の特徴を明らかにしていく。第三章ではアレヴィーにとって重要な聖地であるハジュベクタシ町に見られる願かけ（アダック）の実践について、10 年以上にわたる定点観測をもとにその変遷を論じている。また第四章では宗教庁による通達を分析して、それらの呪術的な実践が宗務庁に代表されるスンナ派勢力との葛藤の中にあることが示される。続けて第五章、第六章でも犠牲獣の喜捨や病に対する伝統的医療の事例をとりあげつつ、「伝統的アレヴィー」がもつスンナ派に還元できない独自の信仰世界が明らかにされる。</p> <p>以上のように、本論文はこれまで部分的にしか明らかにされてこなかったトルコの「アレヴィー」について歴史的背景を含めた全体像を描き出すことに成功しているのみならず、そこに三つの潮流を指摘し整理を試みている点は高く評価することができる。本論文がトルコ宗教の研究に一石を投じ、斯学の発展に寄与するところ大なるものであることは疑問の余地がない。よって、本論文の提出者は、博士（文学）の学位を授与されるに十分な資格を有するものと認められる。</p>	